

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月29日実施)	総合評価（3月29日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①社会で活用できる基礎・基本的な学力の定着と確かな学力の定着に向けたきめ細かい学習指導を行う。</p> <p>②本校の育てたい生徒像の実現に向けた特色ある教育課程を編成していく。</p>	<p>①生徒の特性や学習速度に対応した学習活動を進め、ICT機器を活用した授業をより一層推進する。</p> <p>②新学習指導要領の導入に伴い、新たな教育課程の実施を教科横断的な視点で行っていく。</p>	<p>①授業の内容のまとまりごとの振り返りを徹底し、基礎学力の定着状況を把握し、学習活動へ反映する。</p> <p>①生徒の確かな学力の向上に向け、授業におけるICT機器利活用を推進する。</p> <p>②新学習指導要領の趣旨を踏まえた本校の育てたい生徒像を実現する。</p>	<p>①生徒による授業評価の「授業で身についたことや、できる実感があった」の数値が3.31以上か。</p> <p>①授業におけるICT機器利活用の研修会を開催し、全教科・科目でICTを活用した授業を行うことができたか。</p> <p>②本校の育てたい生徒像の実現を測るアンケートや生徒面談および学校行事等を通して実施できたか。</p>	<p>①生徒による授業評価の「授業で身についたことや、できる実感があった」の数値が3.31で目標値には届かなかったが、昨年を上回ることができた。</p> <p>①座学教科においては、全ての科目でICTを活用した授業を行うことができた。</p> <p>②各学期の面談を通して、育てたい生徒像の考えを伝えることができた。</p>	<p>①引き続き、「授業で身についたことや、できる実感」の数値目標を3.5以上に設定する。</p> <p>①ICT活用の指導力向上を目指し、研修会および教員どうしの情報共有を行っていく。</p> <p>②全ての学校生活の場面において、育てたい生徒像を実現する。</p>	<p>授業で身についたことや、できる実感があった」の数値が上がってきたことは、授業の工夫・改善に一定の成果があがってきていることだと思う。</p> <p>これからも、ICT機器の活用方法の工夫・改善も含めて、教員のスキルアップを図る研修や情報共有に努めてもらいたい。</p>	<p>生徒による授業評価の「授業で身についたことや、できる実感があった」の数値が3.31で目標値には届かなかったが、昨年を上回ることができた。</p> <p>また、座学教科においては、全ての科目でICTを活用した授業を行うことができた。</p> <p>さらに、各学期の面談を通して、育てたい生徒像の考えを伝えることができたことにより、生徒理解が一層進んだ。</p>	<p>「授業で身についたことや、できる実感があった」ことを、生徒がより実感・体感できる授業づくりを目指して、生徒とのコミュニケーションを円滑に、生徒の発話を促す手立ての工夫などを図っていく。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①規則正しい生活習慣を確立するとともに規範意識を身につけさせ、高校生として良識ある行動ができるようにする。</p> <p>②様々な得意分野を持った生徒一人ひとりが、自ら積極的に活躍できる支援体制の充実を図る。</p>	<p>①生徒のライフスタイルの把握を行い、欠席や遅刻の減少に向け、健康管理や食育等の多角的な視点からの生徒支援を行い、規則正しい生活習慣を確立する。</p> <p>②生徒の多面的理解に努めるとともに、生徒一人ひとりが自ら積極的に活躍できる学校生活や学校行事を企画・立案する。</p>	<p>①学校生活アンケートの結果を分析し、自己実現のための規則正しい生活習慣を確立する。</p> <p>②SC、SSWの活用について整備し、今まで以上に利用しやすい教育相談体制を構築する。</p> <p>②学校行事の企画・立案において、生徒の自発的な意見を取り入れ、生徒一人ひとりが主役になれる学校行事を実施する。</p>	<p>①前年同期と比較し、欠席や遅刻の回数が減少したか。</p> <p>①引き続き、企業人講話等の職業研究に資する行動の充実を図る。</p> <p>②教育相談の利用についての理解が深まったか。（生徒・職員アンケートを実施）</p> <p>②生徒の自発的な意見を取り入れた学校行事が実施できたか。</p>	<p>①全学年で20日以上欠席した生徒数が、昨年度は1学期2名、2学期6名だったが、今年度は1学期1名、2学期3名だった。</p> <p>②教育相談活動については、SCに加えてSSWの活動も始まり、生徒の利用だけでなく、職員の利用もあった。</p> <p>②対面式や文化祭では、生徒会役員の意見を取り入れた企画を実施できた。特に文化祭はコロナ前の規模で行うことができた。</p>	<p>①特定の生徒の欠席や遅刻が多い。引き続き担任や家庭との連携を密にして規則正しい生活習慣を確立する。</p> <p>②教育相談活動について、周知することで利用しやすい環境づくりを引き続き行う。</p> <p>②今後も生徒の意見を積極的に取り入れることで、生徒主体の学校行事を実施する。</p>	<p>教育相談活動の場面や機会が活用されたことが、欠席日数の多かった生徒の減少につながっているのかも知れない。</p> <p>引き続き、教育相談活動の展開を軸として、生徒の規則正しい学校生活習慣の確立を図って欲しい。</p> <p>また、生徒の意見を取り入れた行事の企画を進めて、生徒の主体性を引き出して行けたらよいと思う。</p>	<p>教育相談活動におけるSCやSSWの活動に、生徒の利用だけでなく、職員の利用もあったことは成果の一つであると認識している。</p> <p>また、対面式や文化祭といった行事に生徒会役員の意見を取り入れた企画を実施できたことも大きかった。</p> <p>生徒の基本的な生活習慣の確立は引き続き課題であり、今後も家庭等との連携も密に図っていききたい。</p>	<p>生徒指導・支援においては、SCやSSWとの連携が重要であり、今後も連携が遅滞・停滞しないように意識して、職員間の意識共有・統一を図っていく。</p>
3 進路指導・支援	<p>生徒一人ひとりの進路実現に向け、4年間を見通し、各学年で柱となる企画を明確にして段階的な進路指導・支援体制の充実を図る。</p>	<p>①キャリア支援プログラムを策定し、4年間を見通した段階的な進路指導・支援体制を推進する。</p> <p>②総合的な探究の時間における「地域との関わり」の中で、生</p>	<p>①学年ごとに目的を明確にした段階的な進路ガイダンスを開催する。</p> <p>②引き続きさがみはら若者サポートステーションや同窓生の経営する地元企業等との連携や総合的な探究の時間を活用した取</p>	<p>①卒業生全員の進路を実現できたか。</p> <p>②取組の成果として生徒の進路選択の目が地域へ注がれるようになったか。</p>	<p>①今年度は就職希望者1名、進路希望者1名が希望する進路を実現することができた。</p> <p>②就職を希望した1名は市内で内定を獲得した。</p>	<p>①「進路設計」、「進学」、「就職」を認識できるような「進路の手引き」を作成し、今後も先を見据えた計画的かつ段階的な進路指導を通して、生徒の進路実現を図る。</p>	<p>これからも、生徒の進路実現に向けた取組を支援して欲しい。</p> <p>就職については、地域内における就職と就業継続が、続く後輩にとってもプラスになっていく気がするので、地域との関わりはこれからも大切にしていきたい。</p>	<p>生徒が希望する進路実現に一定の成果を見たと考えている。</p> <p>地域との関わりについては、従前の関係にとどまらずに、新たな場面を開拓出来たらよいと考えるので、方策について探求していく。</p>	<p>「進路設計」、「進学」、「就職」を認識できるような「進路の手引き」を作成し、先を見据えた計画的かつ段階的な進路指導を目指して、さがみはら若者サポートステーションや同窓生の経営する地元企業等との連携を強化していく。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月29日実施)	総合評価(3月29日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
		徒の進路実現に向けた取組を推進する。	組も進めながら、同等の効果を期待できる取組・方策を追求する。			②今後も総合的な探究の時間における「地域との関わり」を通して、地域に貢献する生徒の進路実現をする。				
4	地域等との協働	①地域の中の高校として、本校を含めた地域の活性化を視野に入れた活動に取り組む。 ②学校からの情報発信を積極的に行い、家庭・地域社会との連携や交流をさらに深め、地域に根ざした学校づくりを推進する。	①地域との協働活動の教育課程上の位置づけを再確認し、生徒の地域との協働活動への積極的な参加を促す手立てを工夫する。 ②家庭や地域からの理解を深めるため、学校HP等による効果的な情報発信について研究を進める。	①地域との協働活動の動機付け指導をとおして、地域との協働活動の意義や成果について生徒の意識を高める。 ②学校HPによる情報発信のほか、他の媒体による情報発信について検討し、実施する。	①地域の要請等に応える活動に、生徒が参画することができたか。 ②学校HPや学校説明会を通じた情報発信を更新しながら学校の教育活動を広報できたか。	①4年ぶりに小学校との交流活動に、生徒が参画することができた。 ②学校HPや学校説明会を通じた情報発信を更新しながら学校の教育活動を広報できた。また、本年度は、中学校訪問を行うことにより新たな広報活動ができた。	①引き続き小学校との交流活動に、生徒が参画することを促進していく。 ②学校HPや学校説明会を通じた情報発信を行い、本年度より実施した中学校訪問を広げて広報活動を行っていく。	学校の広報活動において、職員の中学校訪問は有効な手立ての一つであると感じる。 異校種との交流も生徒の学びにとって大切な場なので、継続していけることを期待する。	学校の広報活動における職員の中学校訪問は、効果的な工夫であった。 今後は、生徒の活動の様子をよりリアルに発信していく方策を考えていきたい。	定時制課程が中学校不登校経験者等の学びの場としても有用であることを踏まえて、中学生やその保護者にとどまらず、中学校の教職員に対するPR活動を工夫していく。
5	学校管理 学校運営	①生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ②防災意識や危機管理能力を高め、学校として生徒の安全を確保する。	①校務におけるICT機器の積極的な利活用により、教職員間の情報共有を進め、業務の効率化と標準化を図る。 ②本校周辺の防災上の特質をとらえ、対応マニュアルの整備や実践的な訓練を計画し、実施する。	①教職員間の連絡やグループ会議で使用するコミュニケーションツールの研修会を開催し、日々の業務に利用する。 ②事故・災害対応マニュアルに基づいて、非常時備蓄品の見直しを行う。 ③地域の実状を踏まえた実践的な防災訓練を実施する。	①引き続きオンライン環境の整備を進めて、業務の合理化がなされ、働き方改革につながることができたか、年次休暇の取得率の向上に結びついたか。 ②事故・災害対応マニュアルに基づいた非常時備蓄品の見直しと整備ができたか。 ③土砂災害や交通網の遮断などを想定した実践的な防災訓練を通して、生徒の防災意識が向上したか。(生徒アンケートの実施)	①校務におけるICT機器Teamsの積極的な利活用により、教職員間の情報共有を進め、業務の効率化と標準化を図ることができた。	①引き続き、校務におけるICT機器Teamsの積極的な利活用により、教職員間の情報共有を進め、業務の効率化を図る。	働き方改革の面からも、Teamsの積極的な利活用によって教職員間の情報共有を進め、業務の効率化と標準化を図ることができたことは素晴らしいと思う。 こうした取組が後退していかないように、これからも不断の工夫と改善を心がけて欲しい。	Teams等のICT活用が、教職員間の情報共有を進め、業務の効率化と標準化を図ることにつながった。引き続き、活用を積極的に進めていきたい。 地域の実状を踏まえた実践的な防災訓練の実施については、訓練時間が夜間であることなど、ハードルも高い。今後は、地域の実情というよりも、災害時の行動訓練といった視点からの工夫を図っていききたい。	引き続き、Teams等のICT活用を積極的に進めていく。 また、防災訓練の実施については、災害時の行動訓練といった視点からの工夫を図っていく。